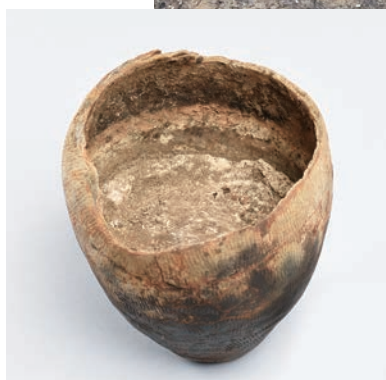


掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第 22 号—



壺のなかの白色の固形物

SI2 竪穴建物跡の内外から穴に納められた弥生土器がみつかりました

穴に埋められた土器、その中には… はちのへじょうあと ～八戸城跡～

八戸城跡第 41 地点は、市庁前広場の南東端にあたります。市内で数少ない弥生時代中期のたてあな竪穴建物跡が 2 棟 (SI1・SI2) 発見されました。SI1 竪穴建物跡は東西約 6m、南北 4 m 前後で楕円形です。中央に地面が赤く焼けた炉跡があり、近くには弥生土器が残されていました。SI2 竪穴建物跡からは径 30cm、深さ 45cm ほどの小穴がみつかり、壺形の弥生土器が納められていました。壺の内部には白色の固形物がたま溜っています。その正体は何なのか分析の結果がたのしみです。弥生土器を納めた小穴は、竪

穴建物の外からもみつっています。

(宇部 則保)



SI1 竪穴建物跡



江戸時代の屋敷跡を発見～^{いかずち}雷遺跡～

雷遺跡は、八戸市の中心部から南東に約2.5kmに位置し、新井田川左岸の標高15～30mの段丘上に立地しています。本遺跡では平成25(2013)年頃から個人の住宅建築を中心に発掘調査が増え続けています。特に昨年度は個人住宅に加え、長芋作付けや集合住宅建築に伴う面積の広い調査も行われ、大きな成果が蓄積されている遺跡のひとつです。

今回の調査では、遺跡の東端から江戸時代の屋敷の跡がみつかりました。それは、主屋^{おもや}とみられる掘立柱建物跡、倉庫や作業場とみられる竪穴建物跡、お墓など、たくさんの施設からなります。

この屋敷での暮らしは、江戸時代より少し前の1500年代(16世紀)頃から始まり、建て替えを繰り返しながら、1800年代(19世紀)頃まで続いていたと考えられます。また、少

なくとも2,000㎡以上あるこの屋敷は、調査した範囲の外にも広がると予想され、現在の一般的な宅地に比べ、非常に大きな敷地だったことがわかります。

主屋や倉庫よりやや離れた、屋敷の中でも比較的高い所には、お墓がまとまって作られていました。江戸時代のお墓のうち、7号墓と9号墓から出土した人骨は、手足を折り曲げた姿勢をとり、生前の住まいを見守るかのような向きで埋葬されています。

現代では、決められた場所にある共同の墓地が当たり前ですが、雷遺跡のように家の敷地の中にお墓をつくる^{やしきばか}屋敷墓は、戦前まではごく普通にみられました。

今ではほとんどみられなくなった、八戸地域の屋敷墓のあり方をうかがうことができる貴重な成果となりました。(横山 寛剛)



雷遺跡第5地点の遺構配置図 標高の低い場所に主屋、その奥に倉庫などの施設、さらに標高の高い場所にお墓が位置します。



7号土坑墓出土人骨 手足を折り曲げ、顔は屋敷跡を向いています。



SI10 竪穴建物跡 倉庫や作業小屋に使われたと考えられる建物です。

新田氏のお城の調査～新田城跡（館平遺跡）～

新田城跡は、館平遺跡の範囲内にあり、八戸市中心部から南東約 3.5km に位置します。新井田川と松館川との合流点の右岸にある標高 6～37m の独立した段丘上に立地し、その最も高く平らなところに新田城跡があります。

お城の中心部である本丸（主曲輪）は、東西約 200m、南北約 150m の広さがあり、根城南部氏の一族である新田氏の居城と伝えられています。お城がつくられた時期は、遅くとも明德 4（1393）年以降と推測されていますが、正確な時期はわかりません。天正 20（1592）年に、根城とともに破却され、城としての機能を失ったとされています。

寛永 4（1627）年、根城南部氏が遠野へ国替えとなったときに、新田氏も遠野へ移り、新田城は廃城になったと考えられています。また、明和 3（1766）年には、当時の八戸藩主が隠居後の病気保養のための建物を建てて移り住み、これを「新井田御殿」と呼んだという記事が文献に残っています。

新田城跡は、調査事例が少なく、遺構もほとんど残っていないため、お城の様子はよくわかりません。そこで、平成 30 年度から 3 年間の計画で、お城の内容を確認するための調査を本丸部分で行っています。初年度となる平成 30 年度の調査は、本丸約 15,000 m²

のうち 5,000 m²を対象に調査を行いました。

今回の調査では、主に戦国時代から江戸時代の掘立柱建物跡・倉庫跡・井戸跡・土坑・鍛冶遺構・溝跡・土塁、縄文時代の竪穴建物跡・土坑・落とし穴などがみついています。また、土地を平らにならしたり、堀の角度を急にしてお城の守りを強くするための整地がされていることがわかりました。掘立柱建物跡には、1つの穴のなかに同時に 2本の柱を建てたものもみつかりました。このような建物跡は、現時点では類例が見当たらないため、今後、建物の構造を検討する必要があります。

みつかった遺構のあり方から、新田城はお城としての機能を備えていることがわかりました。遺物は、縄文土器・土師器・陶磁器・石器・鉄製品・土製品・銭貨などが出土しました。新田城の存続した時期を考える手がかりとなる陶磁器は、16世紀後半から19世紀の国産陶磁器、17世紀の中国産磁器など、幅広い時期のものがあります。過去の調査でも、15世紀から16世紀末頃の陶磁器が出土していることから、この時期に城内で人びとが活動していたことがわかりました。

今回の調査で様々な遺構がみつかり、少しずつお城の姿がみえてきました。（田中 美穂）



新田城跡本丸全景



掘立柱建物跡 長方形の穴に2本柱を建てています

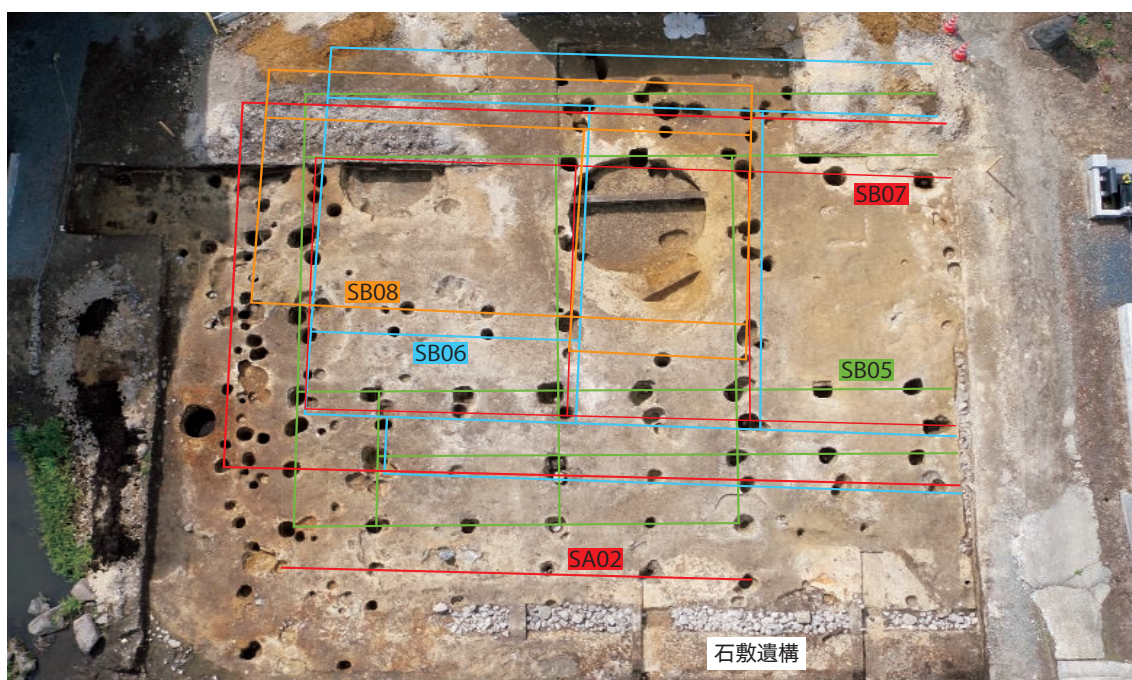
常安寺はいつから？～櫛引遺跡～

八戸市内の館地区にある櫛引遺跡は、馬淵川右岸の標高 20 ～ 110m の段丘にあります。これまでに縄文時代草創期、奈良・平安時代、江戸時代の遺跡がみつかり、発掘調査は行われていませんが、遺跡内には中世櫛引氏の居館とされる櫛引城跡も位置します。

第 6 地点の発掘調査は、遺跡北側の浄土宗常安寺本堂の建て替えに伴って実施しました。寺域では 28 年度に同様の調査 (第 5 地点) が行われ、江戸時代の掘立柱建物跡、井戸跡などが検出されています。第 6 地点はその北東側にあたり、棟を南北方向にそろえた江戸時代の掘立柱建物跡、井戸跡のほか縄文時代の土坑、古代の竪穴建物、明治以降の石敷遺構などがみつかりました。

掘立柱建物跡は数回建て替えられています。柱穴には焼け土が含まれているものも多いことから、火事で焼失し、再建された建物もあったことがわかりました。石敷遺構は、明治以降の建物の基礎部分にあたります。建物の重さで柱が沈まないよう溝を掘って石を入れ、土を被せ固めています。礎石は残っていませんでしたが、明治以降になると掘立柱から礎石などを使った建物へ変わっていったと考えられます。江戸時代の遺物は 17 世紀のものが多く、国産の碗、皿、格の高い中国産の皿や仏具の香炉といった陶磁器のほか茶臼、碁石なども出土しています。茶をたしなみ、囲碁に興じる風雅な心得の人がいたのでしょう。

(宇部 則保)



第 6 地点全景

SA…堀跡 SB…掘立柱建物跡



中国産 皿

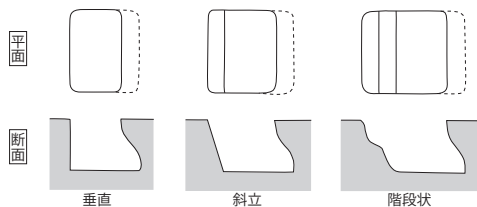
香炉

碁石

江戸時代の墓～石橋遺跡～

石橋遺跡は、八戸市中心部から南東約4kmの位置にあり、新井田川右岸の標高47～72mの緩やかな南向きの斜面に立地します。これまでの調査で平安時代の竪穴建物跡や、縄文時代の落とし穴などがみつっています。

今回の調査では、江戸時代の墓が多くみつかりました。墓は、狭い範囲に重なり合うように15基つくられています。これらの墓は全て土葬で、亡くなった人を布やムシロに包んで埋葬していました。頭は北側に向けられ、ひざやひじを折り曲げた姿勢で埋葬されています。墓の形には、円形・楕円形・長方形のものがありますが、そのなかでも平面の形が長方形、断面の形が靴形の墓が半数を占めています。本遺跡だけではなく、市内の別の遺跡でも同じような形の墓がみつっており、この地域の墓のつくりかたのひとつであったようです。なぜ、わざわざ入口の狭い靴形に掘り込まれているのでしょうか。そこには、次の世への生まれ変わりの願いや、死に対する



断面が靴形の墓の模式図



狭い範囲に集中してお墓がみつかりました

けがれなど、死生観が表れているのかもしれませんが。

副葬品には、死者が三途の川を渡るためのお金とされる六道銭がもっとも多く添えられていました。そのほか、煙管や漆器、鎌などの刃物があります。刃物には、魔除けの意味があるともいわれます。幼児の墓に添えられた鎌からは、あの世に旅立ってもなお、邪気をはらい、子供の身を守ろうとする親心がうかがえます。

江戸時代の記録によると、この地区には「新井田村」や「妙村」といった、現在も地名が残る村があったようです。みつかったお墓は、村に暮らした人びとのものと考えられます。

(小笠原 善範・田中 美穂)



同年代のひとが寄り添うように埋葬されています



幼児（2才）のお墓に添えられた鎌



平成 30 年度遺跡調査報告会を開催しました

平成 30 年 11 月 10 日（土）に、八戸市内の遺跡発掘調査の主な成果を発表する遺跡調査報告会を開催しました。今回は例年より来客数が多く、市内外から約 94 名の参加がありました。

報告会では、古代・近世の雷遺跡（中居林地区）、中世・近世の櫛引遺跡（櫛引地区）、中世・近世の新田城跡（新井田地区）の調査成果の報告を行いました。また、特別報告として、三戸町教育委員会 野田 尚志先生に三戸城跡の最新の発掘調査成果についてご報告いただきました。

遺物展示会場では、雷遺跡・櫛引遺跡・新田城跡の主な出土遺物のほか、八戸城跡の竪穴建物跡から出土した完全な形の弥生土器、

三戸城跡の瓦を展示しました。

平成 19 年度から 30 年度までの遺跡調査報告会の資料は、是川縄文館のホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

（横山 寛剛）



報告会会場のようす

これかわの一品②「岩偶」

みなさん、小さい頃にアニメのキャラクター人形で遊んだ経験ありますよね？これは玩具の類。一方、仏像や祭礼行事などで目にする人形は信仰の対象。今回紹介するのは、そんなフィギュアのひとつ、馬淵川流域に特徴的とされる縄文時代の岩偶です。

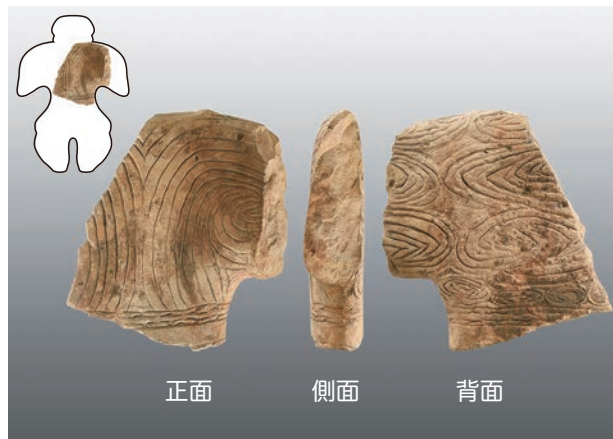
最近、縄文の遺物の中でも特に注目を浴びる土偶は、女性の間でとても人気のようです。それに比べて岩偶の知名度は今ひとつ。それもそのはず、もともと多くは作られなかったようで、土偶に比べたら少ししかみつかっていません。

写真の岩偶の欠片は、縄文時代晩期（今からおおよそ3千年前）のものです。腰から左肩にかけて残るその高さ 17.6 cm は、国内最大級の大きさと言えます。正面と背面には渦巻き模様が彫刻され、左脇には乳房と思われるわずかなふくらみを観察できます。

黒く焼き上げる土偶に対し、岩偶は白い石が選ばれます。文様や造形にもいくつか異なる点があり、両者は同じ人形の祈りの道具でありながら、使われ方に違いがあったのかもしれない。

この遺物は、令和元年の夏に開催する是川縄文館の特別展「北の縄文世界」で展示する予定です。みなさんなら、この岩偶に何をお祈りしますか。

（小保内 裕之）



是川中居遺跡からみつかった岩偶

是川石器時代遺跡の第1期整備について

八戸市では、是川石器時代遺跡のうち、内容確認が進んだ中居遺跡と一王寺遺跡貝塚地点を第1期として「是川縄文の里」の整備を進めています。平成30年度は地形測量と、整備する遺跡の姿や使用する材料を検討する基本設計を行いました。

第1期整備の目玉である中居遺跡では、縄文時代晩期の集落や是川縄文人の資源利用を再現する整備を行う予定です。設計では、地形の復元や、立体復元する竪穴住居や水辺の作業場などの施設構造や全体配置のほか、園路などの設備についても検討しました。また、是川縄文人のように活用し更新していくクリ・トチ林を創出するため、苗場の設計とともに、林床に一王寺遺跡の山林表土を用いて在来植物の復元を図っていく予定です。

是川縄文の里整備は、市民と一緒に考え取り組んでいく体制を目指しています。私たちと一緒に是川縄文の里をつくっていきましょう！令和元年度からは、史跡内にある施設の撤去工事と撤去箇所の発掘調査を実施します。

(市川 健夫)



完成予想図（中居遺跡）

平成30年度是川遺跡出土品保存修理事業

平成23年度に追加指定された重要文化財「青森県是川遺跡出土品」は、修理や補強が必要なものがあり、漆製品や木製品など状態が変化しやすいため、継続的に修理を行う必要があります。

平成30年度は、土器6点と木製品6点、計12点の保存修理を行いました。修理では、細部の観察やX線撮影により状態を確認し、クリーニングをした後に、それぞれの状態に応じた修理が行われます。木製品は、ヒビや穴などにより強度がない部分に樹脂を入れて補強したあと、欠けている部分を樹脂などで補い、色づけをします。補った部分は、本体と区別がつくように色を塗ります。最後に、安定した状態で保存できるように接地面をシリコン製にした台座にのせて完成です。

保存修理によって、本来の美しい姿をよみがえらせ、安定した状態を保ちながら展示等で公開・活用することができます。大切な文化財を未来に伝えていくために、今後も少しずつ保存修理を進めていきます。

(上ノ山 拓己)



1



2



3



4

木製品の保存修理 1…修理前 2…X線撮影で内部の状態を確認 3…樹脂を使って補強 4…修理完成



平成 30 年度 八戸市内発掘調査一覧

	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	種別／主な時代
市内遺跡発掘調査事業	八戸城跡	試掘調査	店舗建設	H30.4.9	3	城館跡／近世
	石橋遺跡第 10 地点	試掘調査	個人住宅建築	H30.4.9・10	32.5	集落跡／平安
	舟渡ノ上遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.4.10～18	63	散布地／縄文
	雷遺跡第 4 地点	試掘調査	集合住宅建築	H30.4.11・12	130.5	散布地／縄文・平安
	市子林遺跡第 23 地点	試掘調査	長芋作付け	H30.4.13～19	809	集落跡／縄文・古墳～近世
	前川目遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H30.4.19	27.7	散布地／縄文
	石橋遺跡第 11 地点	試掘調査	長芋作付け	H30.4.20・23	126.5	集落跡／平安
	八戸城跡	試掘調査	集合住宅建築	H30.4.24～27	79.5	城館跡／近世
	雷遺跡第 7 地点	試掘調査	個人住宅建築	H30.4.27～5.1	39	集落跡／奈良・平安
	浜道通遺跡	試掘調査	農業用倉庫建替え	H30.5.8	13.5	散布地／縄文
	古馬屋遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.5.28～31	90	散布地／縄文
	殿見遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H30.6.5	2.5	散布地・古墳／縄文・奈良・平安
	土橋遺跡隣接地	試掘調査	範囲確認調査	H30.6.5	25.5	散布地／縄文
	田面木遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H30.6.6	1.25	集落跡／縄文・弥生・奈良・平安
	高館遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H30.6.13	1	散布地／縄文・平安
	雷遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H30.6.14	3.2	散布地／縄文・平安
	松長根遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H30.6.19	15	散布地／縄文
	松ヶ崎遺跡第 11 地点	試掘調査	長芋作付け	H30.6.14～7.4	409.6	集落跡／縄文
	八戸城跡第 40 地点	試掘調査	店舗建設	H30.6.21～28	79.03	城館跡／近世
	酒美平遺跡①	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.7.9～11	48.5	集落跡／縄文・飛鳥・奈良・平安
	櫛引遺跡第 9 地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.8.7～9、 9.18～10.5	555	集落跡・城館跡／縄文・奈良～近世
	田面木遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H30.8.9	7	集落跡／縄文・弥生・奈良・平安
	天狗沢遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.8.21	24	散布地／縄文・平安
	八戸城跡第 41 地点	試掘調査	交番建設	H30.8.17～28	36	城館跡／近世
	酒美平遺跡第 19 地点	試掘調査	福祉設備建築	H30.8.23・24	93	集落跡／縄文・飛鳥・奈良・平安
	八戸城跡③	試掘調査	個人住宅増築	H30.9.20	1.4	城館跡／近世
	八戸城跡④	試掘調査	個人住宅建築	H30.9.25	12	城館跡／近世
	笹ノ沢(2)遺跡第 1 地点	試掘調査	新産業団地建設	H30.9.5～10.31	730.5	集落跡／縄文
	雷遺跡②	試掘調査	長芋作付け	H30.10.9～15	394	散布地／縄文・平安
	市子林遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H30.10.15	3.5	集落跡／縄文・古墳～近世
	松ヶ崎遺跡隣接地	試掘調査	個人住宅建築	H30.10.16	12	集落跡／縄文
	酒美平遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.10.17	19	集落跡／縄文・飛鳥・奈良・平安
	石橋遺跡	試掘調査	有料老人ホーム建築	H30.10.22・23	54	集落跡／平安
	石橋遺跡第 12 地点	試掘調査	長芋作付け	H30.10.22～31	582.5	集落跡／平安
	根城跡	試掘調査	個人住宅建築	H30.11.2	13	城館跡／中世
	根城跡	試掘調査	個人住宅建築	H30.11.2	12	城館跡／中世
	石ノ鉢遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.11.14	30	散布地／縄文・弥生・奈良
	石ノ鉢遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.11.14	48	散布地／縄文・弥生・奈良
	酒美平遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H30.11.19	1	集落跡／縄文・飛鳥・奈良・平安
	雷遺跡隣接地	試掘調査	範囲確認調査	H30.11.20	22	散布地／縄文・平安
	野馬小屋遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.11.26・27	160	散布地／縄文・弥生
	上ノ沢遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H30.12.4	9	散布地／縄文・奈良・平安
	沢ノ上遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	H30.12.18	108	集落跡／弥生・奈良・平安
	烏館場遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H31.1.18	15	散布地／縄文
	館平遺跡第 31 地点	試掘調査	個人住宅建築	H31.1.30	34.5	集落跡・城館跡／縄文・平安・中世
	中野(2)遺跡第 1 地点	試掘調査	個人住宅建築	H31.3.6	15	散布地／平安
	沢里山遺跡	試掘調査	集合住宅建築	H31.3.15～20	150	散布地／縄文・奈良・平安
	雷遺跡第 6 地点	本調査	個人住宅建築	H30.4.3～5	20	集落跡／平安
	石橋遺跡第 11 地点	本調査	長芋作付け	H30.5.9～6.5	400	集落跡・墓／平安・近世
	雷遺跡第 5 地点	本調査	長芋作付け	H30.5.23～6.16	1,000	集落跡／縄文・奈良・近世
	館平遺跡(新田城跡)第 30 地点	確認調査	内容確認調査	H30.7.23～8.29	630	城館跡／中世
受託事業	櫛引遺跡第 6 地点	本調査	寺院建築	H30.4.3～27	180.00	集落跡・城館跡／縄文・奈良～近世
	雷遺跡第 4 地点	本調査	集合住宅建築	H30.7.6～8.3	650.00	集落跡／縄文・飛鳥・奈良
	八戸城跡第 41 地点	本調査	交番建築	H30.9.3～9.28	130.00	城館跡／近世
	八戸城跡第 40 地点	本調査	店舗建築	H30.10.1～12.21	1,494.00	城館跡／近世



《調査事務局》(平成 30 年度)

八戸市教育委員会
 教 育 長 伊藤 博章
 教 育 部 長 吉田 幸司
 教育部次長兼教育総務課長 橋本 淳一

是川縄文館長 工藤 朗
 副 館 長 田茂 隆一

《埋蔵文化財グループ》
 参 事 小保内 裕之
 主幹兼社会教育課主幹 杉山 陽亮
 主査兼学芸員 横山 寛剛
 主事兼学芸員 田中 美穂
 主事兼学芸員 芋坪 祐樹
 主 事 宇部 佑保
 主 事 村木 淳
 臨時職員 小笠原 善範

《縄文の里整備推進グループ》
 縄文の里整備推進 GL 小久保 拓也
 副 参 事 大野 亨
 主 査 金澤 匡志
 主 査 番沢 裕子
 主 査 熊野 聡美
 主査兼学芸員 市川 健夫
 主事兼学芸員 上ノ山 拓己
 主事兼学芸員 佐藤 ちひろ
 非常勤主事 菅澤 早希子
 臨時職員 清水頭 市子
 臨時職員 下沢 雅代

《平成 30 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第 166 集 櫛引遺跡第 6 地点

第 167 集 新井田古館遺跡
 第 31 地点

第 168 集 雷遺跡第 4 地点

第 169 集 八戸市内遺跡 38

市子林遺跡第 23 地点、八戸
 城跡第 40・41 地点、松ヶ崎遺
 跡第 11 地点、酒美平遺跡第 19
 地点、櫛引遺跡第 9 地点、笹ノ
 沢(2)遺跡第 1 地点、石橋遺跡
 第 10・11・12 地点、雷遺跡第
 4・5・6・7 地点、館平遺跡(新
 田城跡)第 30 地点 A 区

掘りday はちのへ 第 22 号

発行年月日 2019 年 6 月 14 日
 編集・発行 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
 〒031-0023
 青森県八戸市大字是川字横山 1
 TEL 0178(38)9511
 E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp
 https://www.korekawa-jomon.jp
 (是川縄文館ホームページ)

印 刷 大東印刷株式会社

印刷部数：1,000 部 印刷経費：一部あたり 97.2 円

